

乳幼児保育における 新型コロナウイルス感染症対策

Ver.2

「新型コロナウイルス感染症」が報道されてから一年余り、感染者数1億2千万人以上、亡くなった人は世界中で267万人と報道されています(WHO 2021.03.18 現在)。日本でも感染者数45万人、8千7百人以上(厚生労働省 2021.03.18 現在)もの尊い命が失われて、また医療崩壊が現実のものになりました。

この冊子では、乳幼児の保育において指針に基づく最新情報とともに、昨年4月初めの緊急事態宣言中での保育園の取り組み(Ver.1)のその後、第2回目の緊急事態宣言発令(2021年1月7日)を迎えた保育園での様子とコロナ感染症との闘いを紹介します。

実習を前に不安を抱える学生や送り出す学校指導者への貴重な情報となるでしょう。

目次

新型コロナウイルス感染症の基本的な対策として心がけたいこと …2

- 1) 保育園での感染対策
- 2) 新型コロナウイルス感染症や対策に関する理解を支援する絵本

白梅いずみ保育園の取り組み …4

- 1) 新様式下の保育
- 2) 感染拡大の冬へ
- 3) 園からみる問題点
- 4) 今後を見通す点

実習生として学び考えてほしいこと …8

- 1) 学生として知りたいこと、知っておくべきこと
- 2) 学校として何を学んでほしいのか、身につけてほしいのか
- 3) 園長から学生のみなさんへ

大学図書出版 編集部 編

以下のサイト(「読者のページ」)で、この冊子に関する追加情報を閲覧、またはダウンロードができます。

<https://www.daigakutosho-dokusha.com/>



新型コロナウイルス感染症の基本的な対策として心がけたいこと

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大や、子どもへの感染が起これやすいといわれる変異株（VOC-2020 12/01）の発見等に伴い、保育においても感染予防に関わる基本的な対策を徹底して実践されることが重要であるように思われます。

新型コロナウイルス感染症は、主に、飛沫感染や接触感染によって感染します。保育でも、手洗い、換気、消毒、検温等にわたって基本的な対策が実施されてきました。

保育における感染症対策では、健康管理及び健康教育を通して、乳児期から子どもの健康の保持・増進に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症に関しては、今後も最新の確かな情報に基づいて理解や対策を進めることが求められます。

1）保育園での感染対策

①手洗いのタイミング

手洗い等により手指を清潔に保つことが最も有効な対策とされてきました。

保育所における適切な手洗いの順番等につきましては、「保育所における感染症対策ガイドライン（2018改訂版）」等が参考にされています（Ver.1 参照）。

また、文部科学省より小学校においても「学校の新しい生活様式」を作成し、以下の「手洗いの6つのタイミング」が推奨されています。

- (1) 外から教室に入るとき
- (2) 咳やくしゃみ、鼻をかんだとき
- (3) 給食（昼食）の前後
- (4) 掃除の後
- (5) トイレの後
- (6) 共有のものを触ったとき



②飛沫感染防止

新型コロナウイルス感染症対策では、熱中症等の予防に配慮し、子どもについては、一人ひとりの発達の状況をふまえる必要があることから、一律にマスクを着用することが求められていません。特に2歳未満では、息苦しさや体調不良を訴えることや、自分でマスクを外すことが困難で、窒息や熱中症のリスクが高まるため、マスクの着用が推奨されていません。また、2歳以上であっても、マスクを着用する場合、息苦しさを感じていないかに十分に注意し、持続的なマスクの着用が難しい場合には無理して着用させないことが求められています。



絵の具とりのりを溶いた水にビーズを入れ、スノードームを作ります



クレパスで今日は何を描くのでしょうか

〈みんなマスクで製作中〉



食事は、乳幼児にとって発育・発達に欠かせないものです。また、食事を通して、みんなで楽しむ、食材に触れる、調理を知る等の成長にかけがえのない場面です。しかし、食事時の飛沫感染が一番心配です。今は一列に並んで、おしゃべりは禁止です。

①0歳児 仕切り板は、クリアファイルによる手作りです

②1歳児 割烹着とゴーグルとマスクを身につけ介助します

③冬の換気

飛沫感染予防として、定期的な換気（二方向の窓を開け、数分程度の換気を1時間に2回程度行うことが有効である）は必要です。

白梅いずみ保育園では、夏は換気と熱中症予防、冬は換気と加湿に心がけました。幼児クラスは仕切りを外して広いスペースの確保、南北の窓を1ヶ所ずつ一日中開け放ち、午睡時には少し狭めて調節しています。また、床暖房とヒーター、加湿器付き空気清浄器も調節しながらフル稼働です。エコの観点から考えると問題かもしれませんが、今は先ず換気、加湿、風邪予防です。

2) 新型コロナウイルス感染症や対策に関する理解を支援する絵本

新型コロナ感染症対策において、子どもたちと絵本の読み聞かせ等を楽しみながら、自他の健康を保持・増進する活動を支援することも大切であると考えられます。



グレイス ハンセン著 上田勢子訳
『これが新型コロナウイルスだ!』
子どもの未来社、2020



松永展明・せばまさゆき
『どうしてしんがたコロナになるの?』
金の星社、2020



ジュリー マーレー著 上田勢子訳
『けんこうに、あんぜんに』
子どもの未来社、2020

〈参考文献〉

- ・厚生労働省「国民の皆さまへ（新型コロナウイルス感染症）」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00094.html
- ・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する11の知識」
<https://www.mhlw.go.jp/content/000749530.pdf>
- ・厚生労働省「保育所等における新型コロナウイルス対応関連情報」（令和3年3月12日（金）14：00更新）
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09762.html
- ・厚生労働省「保育所等における新型コロナウイルスへの対応にかかるQ&Aについて」（第八報）
<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000716412.pdf>
- ・文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～（2020.12.3 Ver.5）」
https://www.mext.go.jp/content/20201203-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf

白梅いずみ保育園の取り組み

白梅いずみ保育園の目標は、「心も体も健康で、礼儀正しく頑張る子」で、毎日の積み重ねを大切に、日々の生活を丁寧に送ることを基本としています。

この冊子では、コロナと熱中症「特別な夏」以後の当保育園の取り組みを紹介します。

1) 新様式下の保育

昨年1月「新型コロナウイルス感染症」が日本に入ってきてからの保育園での闘いは、今まで経験したことのない生活様式を余儀なくされました（Ver.1 参照）。

子どもたちは、保育士との約束「手指の清潔」「身体的距離」「換気」「検温」を守りつつ、コロナ禍においても元気に毎日を送っています。

① 1回目の緊急事態宣言解除後の行事

- ・内科健診…緊急事態宣言のため延期されていた内科健診・歯科検診を受けました。次回の健診（10月29日）と間隔が詰まったものの無事に終了。

※令和2年度の健康診断にあたっては、感染症防止に配慮した上で、少なくとも1回は実施すること。（厚生労働省第八報）

- ・運動会…近隣中学校の体育館を借りて、幼児クラスのみで通常行う種目のすべてを時間短縮して開催しました。

競技中以外はマスク着用。観客は保護者及び日頃送迎をする人のみマスクを着用し参加、ビニールシートを敷いた上で観覧することをお願いした。

- ・お遊戯会…例年1月の行事ながら前倒しで12月に行われました。

2歳児クラス以上の参加で、飛沫防止から合唱や鍵盤・ハーモニカの使用は中止。4、5歳児合同合奏も学年ごとに実施。観客（マスク着用）の出入り誘導、その際の換気と床の消毒を園職員で行った。運動会、お遊戯会は、子どもたちの成長した姿を家族の前で披露するよい機会です。また、幼児期になると友達と「練習した」「できた」という達成感を得られることもでき、とても大切です。



さあ、これから子どもたちの入場です



フープくぐりや腕にぶらぶら、マスクのお父さんと一緒に障害物競争です



友達とかけっこです。気合は十分！

〈コロナ禍でもたのしい運動会〉

②日々の実践

「保育所等における新型コロナウイルスの対応フォロー」が、横浜市こども青少年局保育・教育運営課より示され、これに則って保育を進めていきます。

緊急事態宣言解除後（昨年5月末）も「手指の清潔」「身体的距離」「検温」は、子どもたちにもしっかりと身についているように思います。

しかし、「顔をくっつけて遊ばない！」「食事中におしゃべりはしない！」子どもには窮屈な要求ばかりです。それでも「また、ずっとおうちにいなくてはならないのは御免だ！」とばかりに保育士の注意をよく聞いてくれ、子どもなりに精いっぱい園生活を楽しんでいるように思います。

2) 感染拡大の冬へ

年末に向け、全国的に急速な感染拡大が見られるようになりました。横浜市子ども青少年局保育・教育運営課より「新型コロナウイルス感染症まん延防止に係る対応のご協力について」と健康チェックカードが送られ、全家庭に配布し毎朝の提出を依頼しました。

保育においては、子どもやその家族及び職員の家族が濃厚接触者になったり、陽性と診断されたりしたときは、保育所内でPCR集団検査を実施する必要があります。そのような場合、どのように対応したらよいでしょうか。

Q 園児や保護者及び職員の家族等に濃厚接触の疑いが生じた場合は

A 濃厚接触者かどうか判断するまでは自宅待機とします。PCR検査で家族の「陰性」が判明次第、解除します。

※濃厚接触者の定義

新型コロナウイルスと感染が確認された者（無症状も含む）と、ウイルスがうつる可能性がある期間（発症2日前から入院等を開始した日まで）ただし、無症状病原体保有者の感染可能期間は陽性確定に係る検体採取日の2日前から入院、自宅や療養施設等待機開始までの間とする。以下の要素で濃厚接触かどうか判断されます。

①距離の近さ…必要な感染防止をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離（1m以内）

②時間の長さ…15分以上接触があった場合

ただし、換気の状態、マスクの有無、会話や歌声など発声に伴う行動等の「3密」の状況、関係性、接触の程度によって保健所が個別に判断する。

参考文献：厚生労働省「新型コロナウイルスに関するQ&A（一般向け）」

緊急事態宣言発令 2021年1月7日

昨年4月の緊急事態宣言発令中では「医療従事者や社会の機能を維持するために就業を継続することが必要な者」として原則該当保護者の園児のため、規模縮小で開所をしていました。今回は感染拡大が広がる中で、なぜ開所をするのでしょうか。

※保育所は保護者が就業中、一人で家にいることができない年齢の子どもが利用するものである。「保育所等について、感染防止策の徹底を行いつつ、原則開所することを要請する」（厚生労働省）

保育園で密集を避けることは困難です。家庭で保育が可能な保護者に対して、園からは園児の登園を控えることをお願いします。コロナ感染の恐怖から、1日おきの登園、午前中保育（食事中の感染が一番不安なため）、退園時の混雑を避け勤務時間を調整して早めのお迎えなど、それぞれの家庭でいろいろ工夫され子どもたちは登園しています。「すごく怖い！」と思う家庭と、「とにかく保育園に行かせたい！」という家庭と、様々です。今までと違った環境が大きなプレッシャーになっている保護者もいたようです。

Q 父親が「陽性」と報告があった場合は

A 母親と園児(乳児クラス)は濃厚接触者となり 2 週間の外出自粛とします。同時に PCR 検査を受けることになります。

園からは区役所子ども家庭支援課に連絡し、母親から聞いた家族の様子を報告。さらに区役所に逐次報告しながら対応を進めることになります。

当該児の母親に確認承諾のうえ、全家庭宛てに「園児が濃厚接触者になったこと」を知らせるお便りを出しました。

※保育所等の園児や職員が罹患した場合や、地域で感染が拡大している場合には、市区町村の判断の下、臨時休園が行われる。(厚生労働省)

Q 園児の「陽性」が判明した場合は

A 園児が「陽性」となった場合、母親から体調と感染経緯の詳細を聞き取り、区役所子ども家庭支援課へ報告。保健課からの指示を待ち、当該児クラスの消毒を行います。

子ども家庭支援課から、保健課との調整のうえ**接触者リスト**が送られてきます。職員総がかりで保育日誌や記憶に基づき、早急に入力し送信。同日夕方には、園児 16 名とクラス担任・担当職員 13 名が濃厚接触者と認定され、2 月 5 日までの休園が決定しました。

夕方、職員 9 名と園長が近くの医院で PCR 検査を受けました(翌々日「陰性」と連絡あり)。

※園長は濃厚接触者と認定されていなかったため自費扱いとなる。

※接触者リスト

氏名・生年月日・住所・接触のあった日・接触状況・基礎疾患・症状を記入し、提出。

Q 園内で PCR 検査を実施する場合は

A 濃厚接触者認定の子どもと職員が PCR 集団検査を受けます。検査業者 3 名と保健課職員 3 名の指示のもと、駐車場で問診表を記入して待機→一組ずつ園舎わきで待機→検査、という流れと、職員の役割分担を決め、検査補助担当者は防護服着用で行います。



PCR 検査

母親が子どもを抱き、保育士が付き添い、検査業者が鼻腔をぬぐい検査。防護服は保健課から支給。

園職員の日頃のチームワークや仕事の取り組み方が反映し、子どもは泣いていたが、手際良く 1 時間程で終了しました。

園内濃厚接触者（希望者も含め）の「陰性」判明

子ども家庭支援課へ連絡し、「明日からの一部保育開始」が承諾され、2月1日から「本当に保育が必要な子ども」だけが登園する保育が始まります。

3) 園からみる問題点

その都度、行政からの指導のもと、一番良い方法は何かと追求しながら「新型コロナウイルス感染症」に一年を通して対応してきました。しかし、園内濃厚接触者の全員「陰性」は判明したものの、この感染症が大きな影響をもたらすことは顕著です。

子どもにとって一番大きな変化は、それまで日頃から積み上げてきた経験や学びの力が、2回の緊急事態宣言の発令で中断されてしまったこと、日常の生活ができなくなったことが大きいと思います。活動や体験の機会が大きく減ってしまったり、それに参加できなかったりした子どもたちへの影響が心配されます。

4) 今後を見通す点

子どもからの感染者はありましたが、濃厚接触者になった保育士13名、乳児16名は検査の結果、全員が陰性だったことを考えると、マニュアルに従い、日頃の安全を配慮した保育の仕方が功を奏したといえます。排泄介助時の手袋使用、マスクの着用、手洗いやうがい、室内の換気など、3密を避ける基本的な方法に気を抜かず徹底して行うことが、感染を防いだものと考えられます。

また、再三の再考申し出により、保健課からも「子どもの施設なので、希望があれば濃厚接触者の見直しをし、拡大を防ぎたいと思っている」と説明を受け、園での早い集団検査に結び付いたものと推察されます。

それらは、きちんとした保育、いざというときのしっかりとしたマニュアルや危機管理、迅速で誠実な行動など、日頃からの『保育に向かう職員の姿勢』の蓄積によるものでしょう。

さらに、感染者が出たときの、職員の動揺（驚き、自分が感染する恐怖、家族のこと、先行きの不安）は多大であります。励まし合い、助け合って乗り切っていくチームの力が救いとなります。日常の職員集団のあり方はとても大切だと思います。



※白梅いずみ保育園の取り組みについては時系列ごとに「読者のページ」で紹介しています。

〈参考文献〉

- ・横浜市子ども青少年局保育・教育運営課長「新型コロナウイルス感染症に係る保育所等に対応について」
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/hoiku-yoji/shisetsu/>
- ・新型コロナウイルス感染症のまん延防止に係る対応の徹底について（令和2年12月4日）
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/hoiku-yoji/shisetsu/0000000000.files/0034_20210309.pdf
- ・新型コロナウイルス感染症対策に係る保育所等の対応について（令和3年3月19日時点） 横浜市（yokohama.lg.jp）



実習生として学び考えてほしいこと

1) 学生として知りたいこと、知っておくべきこと

- ・自分自身のからだと心の健康を整えておきましょう。平熱を知ること、かかりつけの医療機関をもつこと、休日対応の医療機関を調べておくことなども準備として進めておきましょう。
- ・実習は不安でいっぱいです。初めての实習では、何が不安なのかわからないくらいに不安なのです。
- ・実習記録や指導案等の「書く」ものも、難しいです。学生は大変苦勞するようです。
- ・子どもたちにどのくらい援助をしたらよいのか、その判断は学生にはとても難しく、迷います。

2) 学校として何を学んでほしいのか、身につけてほしいのか

- ・保育実習は一人ひとり課題や環境が違うので、学生も「自分の実習」として自分に向かう場であってほしいと思います。
- ・実習は実習指導の時間から始まっています。守秘義務を守るという意識をもって生活しましょう。
- ・保育現場に出る機会をいただいているので、子どもとの関わり、保育士と子どもの関わり等を中心に丁寧に学びましょう。
- ・毎日の実習の中でどんどん課題を見つけて、そのことについて聞いたり考えたりして実習生として成長することを望んでいます。

3) 園長から学生のみなさんへ

コロナ感染の予防から、子どもから実習生へ、実習生から子どもへ、これは絶対に避けなければなりません。また、それぞれ園のおかれている環境や人員によって変わってきます。

そこで、「どのくらい関わっていいですか」というより「どんなことに注意したらよいですか？」と先輩保育士にたずねるのがよいでしょう。「乳児を抱っこする」「食事の介助」「子どもと手をつなぐ」など、具体的な例を挙げ関わるレベルを自分で把握することです。オリエンテーションのときに質問してもよいです。「わからないときは聞くという姿勢」は上手に情報収集する意味で、就職してから必要だと思います。学生時代に、実習を通して身につけることはとても大切です。

実習に入ったら、保育士の接し方をきちんと見ることもよい学びになるでしょう。

〔執筆協力〕 掲載順

山本智子（国立音楽大学 音楽学部音楽文化教育学科 准教授）

池田純子（淑徳大学短期大学部 こども学科 准教授）

吉濱優子（白梅いずみ保育園 園長）

〔協力保育園〕 白梅いずみ保育園

乳幼児保育における新型コロナウイルス対策 (Ver.2)

2020年8月25日 Ver.1 発行

2021年3月25日 Ver.2 発行

〔発行所〕 大学図書出版

〒102-0075 東京都千代田区三番町 14-3 岡田ビル 4F

TEL 03-6261-1221(代) FAX 03-6261-1230

無断で転載することを禁じます

